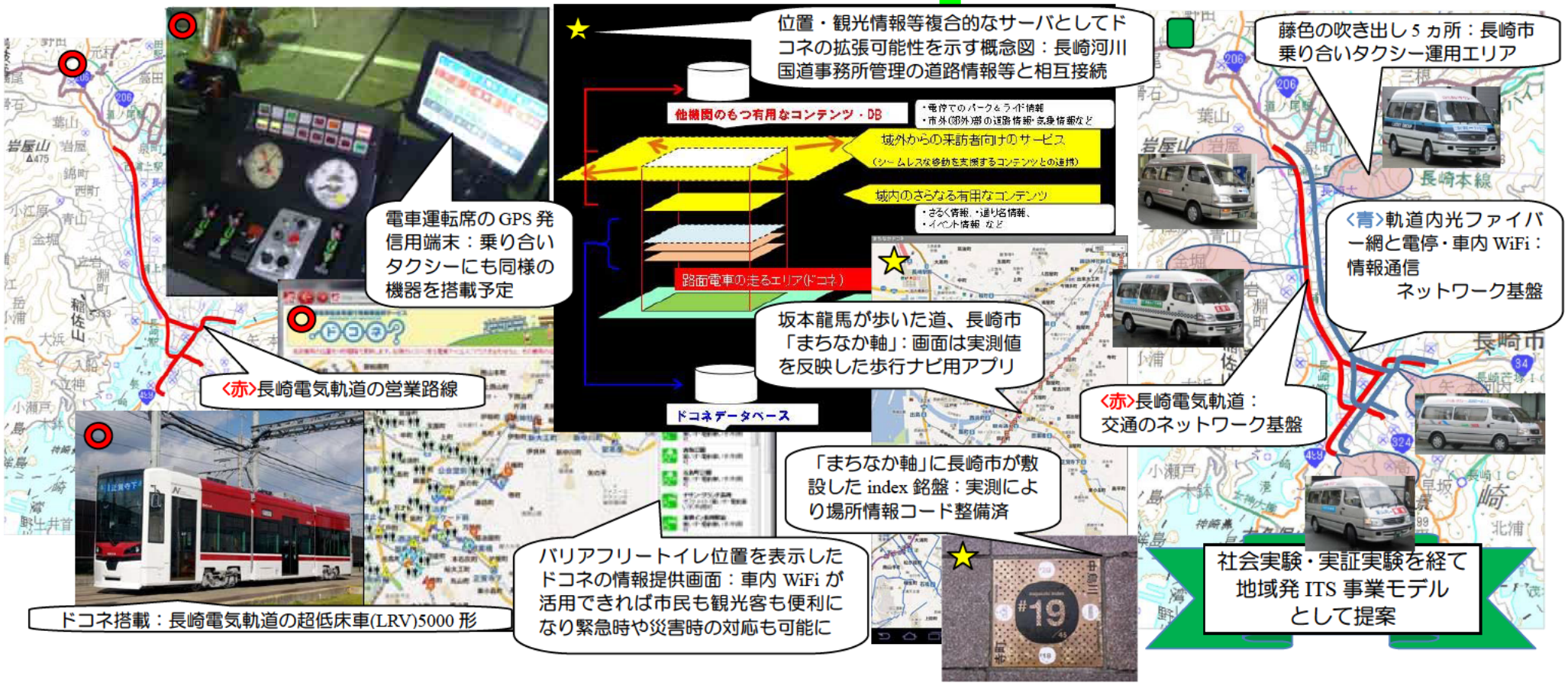
研究開発内容説明図

Web ナビゲーションと近距離無線通信技術によって公共交通の体系化を促し地域発 ITS モデルの構築を目指す研究開発

研究代表者：森田　均（長崎県立大学）　研究開発期間：フェーズⅠ：平成 26 年度～平成 26 年度，フェーズⅡ：平成 27 年度～平成 28 年度

長崎電気軌道では平成 23 年 10 月から GPS を用いて低床型車両から位置情報を発信し、ユーザーの携帯電話・スマートフォン等へ配信する、位置情報配信サービス「ドコネ」を運用している。（◎印図）このシステムをまちなかの徒歩移動とも連携させ、他の観光情報データベースと連動させる試みを平成 24 年度に実施した。（☆印図）また、ITS 世界会議東京 2013 では軌道内敷設の光ファイバーと Wi-Fi 網を介して長崎市内を走行中の車両から東京ビッグサイトまで HD 映像のライブ中継を成功させて、電車の軌道が情報網として機能することを実証した。（□印図）これらの業績を利用して、幹線のみならず周辺部を含めた公共交通の総合的な体系化と、市民生活と観光活性化の双方に有用な情報通信環境の整備という地域の課題に応えるため、位置情報配信システムを拡張することにより幹線としての路面電車に支線として乗合タクシーを結節させる。BluetoothLE(iBeacon)や NFC 等の近距離無線通信技術を利活用して位置情報、観光情報の効率的な提供を目的に実証実験を行う。これによって路面電車（移動手段）に情報網の機能が加わりインフラの融合が実現する。（□印図）将来的には、交通・情報・電力の機能を ICT により統合化したインフラとして、災害時・緊急時にも対応可能な地域基盤とする。本研究開発は、□印図までの成果を取りまとめ地域発 ITS モデルの構築を目指す。